

まほらいな市民大学の様子

令和5年10月26日（木）

『芥川龍之介の恋歌』

講師 文学研究家 堀井正子氏



堀井正子氏から、芥川龍之介の『相聞歌（恋愛歌）一～三』を中心に話がありました。

芥川龍之介の代表作は「蜘蛛の糸」「鼻」「羅生門」などがあります。芥川龍之介の少年時代の写真や青年期の友人（菊池寛、室生犀星、堀辰雄など）の話があり、文豪達が東京・田端に住んでいたという話（田端文士村）がありました。

芥川龍之介の片山広子（ペンネーム松村みね子）への想いを、相聞歌（恋愛歌）を通して深く読みとっていく話がありました。

【相聞歌 二】 風にまひたるすげ笠の なにかは路に落ちざらん
わが名はいかで惜しむべき 惜しむは君が名のみとよ

【相聞歌 三】 また立ちかへる 嘆きを誰にかたるべき
沙羅のみづ枝に花さけば かなしき人の目ぞ見ゆる

堀井氏はどちらの恋歌が気に入りましたかと学生に問われました。堀井氏の芥川龍之介に対する愛情がいっぱい込められた講演でした。

学生からは、「芥川龍之介の知られざる一面を詳しくお聴きすることができて、大変有意義でした。堀井先生の芥川に寄せる熱き思いが伝わってきました。」「相聞歌を読んですごく興味がわきました。掘り下げた話で楽しかった。」「芥川龍之介の文学仲間との手紙のやりとりは、人間味を強く感じ、クールなイメージだった芥川の新しい一面を知りました。」といった感想がありました。